

【ソウル支局16日】十六日開かれた宮沢首相と盧泰愚・韓国大統領の第一回首脳会談の要旨は、日本側によると次の通り。

【国際情勢】 盧大統領 韓国と日本が国際社会の平和と安定に協力して果たした役割は非常に大きい。日本の国会で審議中の国連平和維持活動(PKO)協力法案の背後にある考え方は十分に理解するが、アジアの国々の考え方を整理すると、日本の役割は経済を中心とした非軍事的な面で国際社会の平和と安定に貢献してほしい、ということだと聞く。

宮沢首相 冷戦が終結し、新しい国際秩序を構築するなかで、国連の役割が大きくなった。日本はこうした国連活動に積極的な役割を果たしたい。わが国は湾岸戦争では資金面で大きな貢献をしたが、いまや人的貢献も求める声が高まっている。PKOへの協力は和と平和を確実にするもので、武力活動ではない。日本は二度と軍事大国にならないし、国民がそれを許さないだろう。その中で、日本がなしている限界もはっきりさせておかなければならない。

日韓首脳会談

大統領 十分理解する。国連の役割は大変大きくなってきた。ただ、日本は国連加盟国の意見を十分聞いて進めてほしい。そうすれば、これらの国々の望む方向に行けるだろうし、問題ないでしょう。その際、日本は過去の歴史を正しく認識し、それを基礎にすることが大切だ。過去の歴史に対する正しい認識が確立されてこそ、アジアの国々が持っている心配が解消される。

【対米関係】 大統領 プッシュミ大統領の訪韓とその後の宮沢首相の訪韓は、朝鮮半島、東

わの問題として取り組まれた。北に若干の変化があったという認識が正しいとすれば、日本の確固とした立場が北の変化を促す力となる。今後北の努力を要する。北もいまや、国際的な潮流に合わせいくつの判断をしているのではないかと、それを促進するためにも、日韓で協力したい。

北との首脳会談を提案しており、これを実現したい。そのための日本政府の努力も要する。

【日韓関係】 大統領 日韓両国は間違いない。未来志向的な関係に達しつつある。そのためにも両国の長い歴史の中の短い間の出来事ではあるが、不幸な過去についての正しい認識を日本の方々が持つべき。日韓の密接な協力は運命づけられており、この地域の平和と安定、発展に大きく寄与する。

首相

点では全く同じ考え方を持っている。私自身、肝に銘じてよく分かっている。国会でも近隣諸国に迷惑をかけたことについて遺憾と反省の念を述べている。あす(十七日)の政策スピーチでも、この点を正直に述べたい。私は鈴木内閣当時の官房長官として、歴史教科書の問題で誤解を出したことがある。

大統領 両国間の貿易不均衡や産業技術移転の問題では、強い立場の日本が厳正に歩み、協力してほしい。それが日韓双方の利益にもなる。首相 韓国経済はそんなに弱いものではない。いまの韓国経済の状況は民主化、労働紛争、内需拡大などが招いたもので、短期的なものだ。両国間の関係は、ともにもどういことが出来るかを考えてみよう。